

令和6年度事業報告

令和6年4月1日～令和7年3月31日

公益財団法人 井上育英会

I. 事業の状況

1. 奨学生の選考・奨学金の貸与

(1) 大学別・年次別 学生数・奨学金貸与額 (令和7年3月31日現在)

大 学	採用	年次別学生数(人)						奨学金貸与額(円)		
		6年	5年	4年	3年	2年	計	月 額	留学等対応	年間貸与総額
北 海 道大学	6	2	2	2	7	6	19	562,000	△168,000	6,576,000
東 北大学	4		1	4	3	4	12	354,000	△336,000	3,912,000
東 京大学	2			4	4	1	9	305,000	5,000	3,665,000
東京科学大学	1				2		2	65,000	△210,000	570,000
一 橋大学							0	0		0
名 古 屋大学				1			1	30,000		360,000
京 都大学	1				2		2	70,000		840,000
大 阪大学	1					1	1	35,000		420,000
九 州大学	1			3	1		4	116,000	60,000	1,452,000
合 計	16	2	3	14	19	12	50	1,537,000	△649,000	17,795,000

(2) 奨学金貸与月額	自宅	自宅外
東京・近畿	30,000 円	35,000 円
その他の地域	28,000 円	30,000 円

(3) 留学等対応

〈留学対応〉

令和7年度分前渡 1名 60,000 円

〈休学・途中採用等〉

令和6年度分貸与休止 2名 △504,000 円

10月採用 (東京科学大) 1名 △210,000 円

〈その他〉

月額変更 1名 5,000 円 (自宅30,000円 → 自宅外35,000円)

2. 奨学生に対する勉学、進路等の指導・助言

(1) 月例会等

在京学生に対して、毎月第一水曜日奨学金支給時に学生委員を中心とするOBが夕食を共にし、懇談と指導を行った。各支部でも毎月奨学金支給時に懇談会が行われ、いずれも奨学生の相談が相次ぎ進路等について適確なアドバイスを与えた。

また季節の例会として、初秋例会(9月20日「日本の個人消費～二極化の現状と流通産業界の戦略」NHK解説委員室・解説委員 井村丈思氏)、秋季例会・全国奨学生交流会(11月2・3日阿蘇)、新年例会(1月25日)を開催。いずれも学生とOB会員ら数十人が集い、講演と懇談で啓発の実をあげた。

支部においても、北海道(12月・1月)、東北(1月)、近畿(3月)などでそれぞれ行われた。

(2) 卒業祝賀行事

3月7日の祝賀前夜祭は、全国の卒業生と新奨学生に加えそれ以外の奨学生も参加、OB含め64人が老舗伊勢重のすきやきを囲んで懇談。学生の自己紹介とOBの激励が続いた。

翌2日の祝賀会はアルカディア市ヶ谷で行われ、役員や支部代表の先生方から卒業生らにはなむけの言葉が贈られた。

また同日、卒業生以外の全国の奨学生が参加し交流会が行われた。東京の学生が「東京じっくりツアー2025」を企画。東京観光を通じたゲームを楽しんだ。夜にはOBも加わり懇親会を行い、さらに卒業生も合流し、交流を深めた。卒業生を送る会は北海道・東北など支部ごとにも行われた。

(3) 新奨学生歓迎行事

首都圏在住の新奨学生を歓迎するバス旅行が7月6・7の両日に行われた。新奨学生と先輩の学生・院生・OBらが参加、越後湯沢、魚沼の里を訪ねる旅を楽しんだ。北海道・東北の各支部でも歓迎会等が行われた。

(4) 会誌の発行等

会誌「新桜菱」第269号(R6.5) 第270号(R6.9) 第271号(R6.12) 第272号(R7.2)を発行した。

3. 育英資金の募金

本年度は延べ147人の方から応募があり、募金総額は2,079,000円であった。

II. 附属明細書

事業における重要な事項は令和6年度事業報告書に記載されており、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は、特に無いため、当年度の附属明細書は作成しない。